



## 田瀬ダムにおける水質保全対策の効果を検証します ～第10回「田瀬ダム水質検討会」を開催～

田瀬ダムでは、平成11年頃よりダム湖にて植物プランクトンによる「アオコ」の発生が見られるようになり、平成26年には初めてカビ臭の原因となるアオコ(アナベナ属)が発生しました。このため、アオコ発生の抑制を目的とした水質保全対策(散気式曝気装置の稼働)を実施しており、今年度はアオコ・カビ臭は発生しませんでした。

今後も田瀬ダムの安全で良好な水質を維持し、持続的な水質管理の体制を確立するため、学識経験者ならびに専門機関及び行政機関で構成する『田瀬ダム水質検討会』を開催し、現状の水質保全対策の効果検証等を行います。

本検討会は、平成25年度から開催しており、今回で10回目となります。

■日時:令和2年2月27日(木) 14:00～16:00(予定)

■場所:マリオス 18階 188会議室  
〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通り2丁目9-1

### ■主な議事内容

- (1) アオコ発生状況とこれまでの対応
- (2) 令和元年度貯水池監視結果
- (3) 水質保全対策設備の効果検証
- (4) 田瀬ダム水質管理計画の評価

※当検討会は公開としており、報道関係者席と一般傍聴席を用意しております。

※報道関係者席と一般傍聴席については、定数確保しておりますが、希望者が多数の場合は、先着等により制限させていただきますのでご了承下さい。

《発表記者会:岩手県政記者クラブ、花巻記者クラブ》

＜問い合わせ先＞

国土交通省 東北地方整備局 北上川ダム統合管理事務所  
盛岡市下厨川字四十四田1番地 (電話:019-643-7831)

副所長	さいとう きよみ 齋藤 清見	(内線 205)
管理第一課長	あべ たかあき 阿部 孝章	(内線 331)

## ■第10回 田瀬ダム水質検討会 委員名簿

出席者構成	氏名	所属・役職等
学識経験者	海田 輝之	岩手大学 名誉教授
	伊藤 歩	岩手大学 理工学部 システム創成工学科 教授
	梅田 信	東北大学大学院 工学研究科 准教授
専門機関	福濱 方哉	国土技術政策総合研究所 河川研究部 水環境研究官
	山下 洋正	土木研究所 水環境研究グループ 水質チーム 上席研究員
行政機関	佐々木 克幸	岩手県 県土整備部 河川課 河川開発課長
(国・県)	高橋 長幸	東北地方整備局 河川部 河川保全管理官
	佐近 裕之	岩手河川国道事務所長
	斉藤 喜浩	北上川ダム統合管理事務所長

## 参考資料

### ■田瀬ダムの水質保全設備(曝気装置)の概要

田瀬ダムでは、平成11年頃よりダム湖に植物プランクトンによる「アオコ」の発生が見られるようになり、平成26年には初めてカビ臭の原因となるアオコ(アナベナ属)が発生し、カビ臭が発生しました。

「アオコ」は、ダム湖の表面水温が高くなる夏季に発生するため、表面水温を下げアオコの発生を抑制する事を目的に「散気式曝気装置(水中に空気を送り湖の水を循環する装置)」を平成19年に設置しておりました。当初は3台を設置・稼働しておりましたが、平成29年度からは更なる効果を期待して1台増強し、現在では4台体制での稼働となっています。

また、平成30年度からは水温の上昇に伴うアオコ・カビ臭発生リスクの状況に応じた運用を試行しています。

### ■令和元年度 水質保全設備(曝気装置)の運用実績

1. 運転期間: 令和元年6月3日(月)～10月11日(金)
2. 運転方法: アオコ・カビ臭の発生リスクに応じて4台の曝気装置の空気量を調整
3. 監視体制:  
田瀬ダムではダムサイトの水質自動監視装置による監視に加え、定期水質調査(1回/月)及びダム湖の巡視(2回/月)を実施し、アオコ発生等の状況を把握し、関係機関への情報提供等を行いました。
4. ダム湖の状況  
アオコ・カビ臭は発生しませんでした。



～「アオコ」とは～  
植物プランクトン(藍藻類)が異常増殖して水の表面が緑色の粉を吹いたようになる現象で富栄養化の進んだ全国の湖沼で見られます。

### 曝気装置位置図



### 曝気装置の概要

